

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
AM12Z301	早期体験実習 (Introduction to Clinical Practice (Oita Development Course)) *大分を創る科目(Oita Development Course)					導入教育科目 福祉・地域	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	1	1年	医学部医学科	通年		日本語		複数(共同)					
担当教員	氏名 医学教育センター：山本、秋好、医療倫理学：今井 E-mail kyoko-yamamoto@oita-u.ac.jp 内線 6761												
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期から様々な医療行動科学を学習・理解し、6年間でそれを実践できるようなコミュニケーション力・人間力を自ら育成しなければならないという意識を持つ</li> <li>・自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を獲得する。</li> <li>・医療面接および身体診察の基本を学び、医師になるというモチベーションを保つ。</li> <li>・医師のプロフェッショナリズムについて、さまざまな側面から考え、自ら行動する。</li> </ul>												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	基本的な医療面接を行うことができる。												
目標2	理想の医師像・社会から求められる医師像について言語化することができる。												
目標3	社会から信頼される専門職集団の一員であるためにはどのように行動すべきかを考え、行動することができる												
目標4	自身の想像力の限界を認識した上で、他者を理解することに努める												
目標5	学修・経験したことを省察し、自己の課題を明確にできる												
目標6	課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。												
目標7	コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。												
目標8	情報・科学技術を理解し、それらの応用可能性について議論できる。												
目標9	シミュレーターを使い、異常な心音、異常な呼吸音を聞き分けることができる。												
目標10	医学生としてBLSの輪に参加できる												
各DPへの関連度(計10)							2	3		3	1	1	
授業の内容													
1	医療面接入門 医療面接の基本 : 今井												
2	プロフェッショナリズム教育 理想の医師とは: 秋好												
3	プロフェッショナリズム教育 発表会: 秋好												
4	プロフェッショナリズム教育 あなたなら何と答えますか?: 秋好												
5	プロフェッショナリズム教育 医学生の望ましい態度とは: 山本												
6	プロフェッショナリズム教育 発表会: 山本												
7	プロフェッショナリズム教育 アンプロフェッショナルな行動 : 山本												
8	プロフェッショナリズム教育 発表会: 山本												
9	プロフェッショナリズム教育 内容未定: 山本												
10	プロフェッショナリズム教育 討論会: 山本												
11	身体診察入門 : 医学教育センター												
12	身体診察入門 : 医学教育センター												
13													
14													
15													
ラ	A:知識の定着・確認		PBL(問題解決型学習、チュートリアル)形式のアクティブラーニングを行い、その成果を発表する。 シミュレータや学生同士の相互実習(模擬診療、血圧測定等)による体験型学習を行う。			工 夫 そ の 他 の	LMS(Moodle)の活用						
イ	B:意見の表現・交換												
テ	C:応用志向												
ニ	D:知識の活用・創造												
グ													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		チュートリアル学習法、基本的な医療面接、胸部診察法および血圧測定の方法について、事前にe-learningを行う(7h)										
	事後学修		関連書籍や資料を用いて復習を行う(5h) グループ討論後に発表会の準備を行う(12h)										
	想定時間合計		24										
教科書	福井次矢・奈良信雄 編、内科診断学 第3版、医学書院、2016年 (ISBN:978-4-260-02064-0)												
参考書	佐伯由香 編訳、トートラ 人体解剖生理学、丸善出版、2017年 (ISBN:978-4-621-30069-5)												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ討論と発表	50%										
	実習態度	30%										
	レポート	20%										
実習科目であり、出席は必須。												
注意事項	チュートリアル室とスキルスラボセンターでは、使用規則を遵守すること。 事前学習をして授業に臨むこと。レポートは期限内に提出すること。期限を過ぎたものは受け取らない。											
備考	授業の詳細、PBLの班分けはコース開始前に通知する。											
リンク	Moodle URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	医師											
実務経験を いかした教 育内容	総合内科専門医、家庭医療専門医、循環器内科専門医として、基本的な医学的知識および診察方法を指導する。											